

(令和3年度追加分)

事故形態	職種	災害の概要	公務災害防止対策の内容
転倒	教育職員	体育館から職員室に向かっていたところ、階段を踏み外し、負傷した。	階段の滑り止めを交換した。
転倒	教育職員	会場準備をしていたところ、廊下の防火扉止めに躓き転倒し、負傷した。	段差があることに気づいてもらうため、 <u>標識テープを扉止めの両端に貼り、注意喚起を行った。</u>
転倒	教育職員	授業を終え職員室へ戻ろうと廊下を歩いていたところ、講義室後方のドアから勢いよく出てきた生徒と衝突し、その弾みで腰部を強打し負傷した。	全校集会で啓発講話を行うとともに、 <u>衝突防止用ミラーを設置した。</u>
転倒	給食調理員	給食調理室内を移動していた際、床が濡れていたため、滑って転倒し負傷した。	給食調理室内の床に防滑塗装を行い、 <u>滑りにくくした。</u>
転倒	事務職員	脚立に乗ってリネン庫の整理をした後、脚立の上でバランスを崩して後方に頭から転落し負傷した。	脚立の上はバランスを崩しやすく、不注意により事故につながる場合もあるので、職員に対して改めて注意喚起をするとともに、 <u>より安定感のある脚立を購入した。</u>
飛来・落下	事務職員	倒木の撤去作業中、一緒に作業していた同僚職員が押し倒した倒木が思わぬ方向に倒れ、被災職員の頭部を直撃し、負傷した。	①同様の作業を行う際、作業に従事する職員は必ずヘルメットを着用する。 ②高い所から倒木や石などを落とす際は、 <u>大きな声でお互いに声掛けをしっかりと行い、従事者の位置の把握と安全確認を徹底する。</u>
崩壊・倒壊	事務職員	現場確認作業において、一人でグレーチングの蓋を持ち上げて移動させようとした際、想像以上に重かったため保持できずに水路に落としてしまい、両手指を負傷した。	グレーチングを移動させる際は必ず <u>複数人で行うこと、持ち上げる際は声掛けを行い、慎重に作業することを指示した。</u>
はさまれ、巻き込まれ	教育職員	退勤の際に、左手で学校の門扉を引っ張り、右手をその端に添え門扉を閉めようとしたところ、右手掌の側部を挟み、負傷した。	職員に対して、門扉を閉める際の安全確認を怠らないよう注意喚起を促した。
切れ・こすれ	事務職員	カッターナイフを使って梱包された資材を開梱中、刃先が指に接触し、負傷した。	カッターナイフは <u>切断の都度、刃を元に戻すよう指示した。</u>
切れ・こすれ	事務職員	裁断機を使ってコピー用紙を裁断し終え、裁断刃のハンドルを下ろそうとした際、手指が刃に当たり、負傷した。	①裁断作業中を除き、刃が下がっていることをその都度確認する。 ②刃を振り下ろすタイプの裁断機の使用は <u>極力避け、より安全なスライド式裁断機を使用する。</u>
高温・低温の物との接触	管理栄養士	軽量カップを用いて鍋に入った熱湯を配茶用のサーバーに移す際、計量カップが鍋の取っ手部分に接触し、熱湯が手背にかかり、やけどした。	①鍋の取っ手部分を接触しにくい場所に配置する。 ②熱湯を移す行為を排除できるよう <u>作業工程を改善する。</u>

(令和3年度追加分)

事故形態	職種	災害の概要	公務災害防止対策の内容
動作の反動、無理な動作	教育職員	陸上部の練習指導中、手本を見せるためにマーカーの間をジャンプして着地したところ、右足に違和感が生じて力が入らなくなり、負傷した。	①部活動の指導に当たる教職員は、生徒と同様に入念なウォーミングアップを行うよう徹底する。 ②特に冬季、屋外での活動については十分な準備を行い、準備が不十分な場合は、実地での指導は控える。
動作の反動・無理な動作	事務職員	職員出入口から出る際に、扉の外側に段差があることを忘れてしまい、足首を捻って負傷した。	扉の外側に段差があることを知らせる「段差注意」の張り紙を扉の内側の目立つ位置に貼り付けた。
汚染血液による事故	助産師	夜勤明けのゴミ回収時に、ゴミ袋に留置針が混入していたことに気づかず、指に刺さり負傷した。	①針の混入を防ぐため、ゴミ箱の位置を見直し、感染性廃棄ボックスから離れた位置に設置した。 ②針を廃棄する際は、施行者と介助者でダブルチェックを行う。ゴミを回収する際は、針が混入していないか十分注意をする。
汚染血液による事故	看護師	被災職員は針捨てボックスを床に落としてしまったため、こぼれ落ちた使用済みインスリン針を手袋をはめた手で拾おうとした際に、指に刺さり負傷した。	①針捨てボックスは安定した場所に設置する。 ②床に落ちている針を拾う際は、手で直接拾わず、ピンセット等を使用する。
その他	技術職員	7月の日中に屋外で作業中、手足のけいれん症状が出現した。	①朝礼時の熱中症への注意喚起、こまめな休憩・水分補給などの取組を遂行する。 ②作業前の健康セルフチェックの実施、自覚症状の周知、作業交代の声掛けを徹底する。 ③熱中症飴(一袋2千円程度)を配備し、空調服(一着1万7千円程度)を導入する。 ④公務・通勤災害再発防止検討会で熱中症対策案をまとめ、安全衛生委員会で承認を受けた。
その他	事務職員	サービス利用者宅を訪問し、玄関先の部屋を開けたところ、飼い犬が飛び出してきて両足指を咬まれ、負傷した。	サービス利用者宅を訪問する際は、事前に電話を入れ、飼い犬がいる場合にはゲージ等に入れておいてもらうようお願いすることにした。